

令和6年度第2回小学校教科担任制推進協議会 実践交流資料

1 学校名・教科型

坂町立坂小学校 4教科型

2 学校の概要

(1)学級数及び児童数(R6.12.1現在)

	通常学級							特支 学級	合計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計		
児童数	52	51	48	61	37	51	300	12	312
学級数	2	2	2	2	2	2	12	3	15

3 教科担任制推進教員を配置した授業計画

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	2.9	5	3	1.4	1.4	1.7	2.6	1	2	1	2
5年1組 (担任：A)	A	専科	A	A	推進	専科	A	A	推進	A	A	A	専科
5年2組 (担任：B)	B	B	B	B	推進	専科	B	B	推進	B	B	B	専科

教科等	国語	書写	社会	算数	理科	音楽	図工	家庭	体育	道德	総合	学活	外国語
週当たり標準授業時数	4	1	3	5	3	1.4	1.4	1.6	2.6	1	2	1	2
6年1組 (担任：C)	C	C	C	C	推進	専科	C	C	推進	C	C	C	専科
6年2組 (担任：D)	D	D	D	D	推進	専科	D	D	推進	D	D	D	専科

4 成果と課題

(①授業の質の向上、②多面的な児童理解、③小・中学校の円滑な接続、④教師の負担軽減、⑤その他)

<効果のあった取組>

- ① 授業作りの段階で、直面する課題の解決について一人で悩むのではなく、積極的に他の教員や他の学校の教員と意見交換をする。単元開発を行う。I C T機器の活用。
- ・放課後の時間を活用して、担当している教科（理科・体育）に詳しい教員や、管理職などに授業内容について都度相談した。また、郡の教科研究部会や県大会などの機会を活用して良い実践や困りごとなどを共有することで授業の質を向上させることができた。
 - ・高学年の体育を担当している教員と、中学年の体育を担当している教員で相談しながらベースボール型の単元開発を行った。児童からも教員からも敬遠されがちなベースボール型を簡易的に楽しくできないかを考え、「チャレンジ！ベースボール5」を開発した。学級担任ではその学級だけの実践になるが、専科の教員が指導することで新しい取組を統一して多くの児童に体験させることができた。
 - ・専科の教員がI C T機器を使用した授業をすることで、学級ごとに違う児童のスキルの差がなくなる。
- ④ 専門性のある教科を担当すること。
- ・児童のアンケートからも「先生にも得意不得意があるので、得意な先生がやった方が良い」「得意な先生は見本などを見せてくれるから分かりやすい」など前向きな意見が多く出ていた。



<成果>

- ① 経験が豊富な教員が相談にのることで、授業の質が向上するとともに、安全に学習を進めることができた。
- ・学級・学年を超えて担当することで、思い切った単元開発（具体的には新しいスポーツへのチャレンジ）を行い、児童に新しい体験をさせることができた。



職員も体験！

- ・I C T機器も担当する全学級で同じように取り扱うことで、スキルの向上もみられた。
- ④ 体育・音楽・外国語の授業において、専門性の高い教員が担当することで、深い教材研究をすることができ、負担が軽減するとともに、多数の教科の教材研究を行う学級担任の負担の軽減にもつながっている。
- ・学級担任からは「専科が授業をすることで、学級事務のための時間が確保される。」「自分が苦手な教科を担当してもらうことで、より児童の学びが深まる。」という声が多い。
 - ・教科担任制推進教員も、学級担任をしている時より、現在の方が時間外労働時間は短くなっている。

2022 年（学級担任）4 月 61 時間 → 2024 年（教科担任）4 月 33 時間

<課題>

- ① 他の教員と意見を交流するように意識はしているが、行事が重なる時期などではその時間が取りづらく、授業作りの段階で、直面する課題の解決について一人で悩むこともあった。

行事が集中する二学期

9月 運動会練習

10月 運動会、町陸、修学旅行、各学年社会見学、研究授業

11月 音楽発表会、郡陸、各学年社会見学、研究授業

- ④ 体育や音楽などは、運動会や音楽発表会などの大きな行事に直結しており、その時期になると逆に教科を担当する教員に負担が集中している。

・体育の専科教員も音楽の専科教員も、行事の前後は時間外労働時間が多くなっている。

2023年度 2月（普段）27時間 → 9月（運動会前）51時間

2023年度 2月（普段）15時間 → 11月（音楽発表会前）27時間

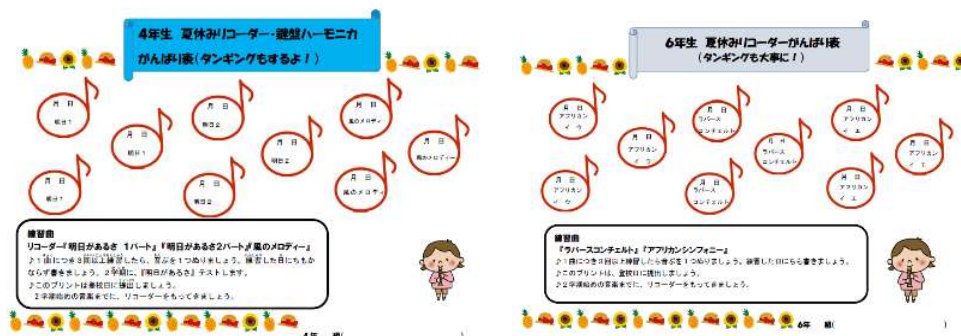
この数字には表れない持ち帰り仕事や精神的・肉体的負担も多くなっている。



<対策>

- ① 行事やその他予定に対して見通しをもち、長期休暇や1・2か月前から教材研究を行うことで交流する時間を確保した。

- ・夏休みの時間を使って二学期分、冬休みの時間を使って三学期分すべての教材研究や予備実験を行った。
- ・運動会を見据えて、授業の最初に表現の技を練習したり、音楽発表会を見据えて、夏休みの宿題にリコーダーの宿題を出したりして早め早めに動いた。



- ④ 運動会については担当者を増やした。音楽発表会については、教科を担当する教員以外で可能な教員に伴奏などを分担した。